

合同

No. 482

「永遠の命を得るには」

江戸川台教会牧師

田名邊 義之



「さて、一人の男がイエスに近寄って来て言った。「先生、永遠の命を得るには、どんな善いことをすればよいのでしょうか。」イエスは言われた。「なぜ、善いことについて、わたしに尋ねるのか。善い方はおひとりである。もし命を得たいのなら、掟を守りなさい。」男が「どの掟ですか」と尋ねると、イエスは言われた。『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、父母を敬え、また、隣人を自分のように愛しなさい。』そこで、この青年は言った。「そういうことはみな守ってきました。まだ何か欠けているのでしょうか。」イエスは言われた。「もし完全になりたいのなら、行って持ち物売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」青年はこの言葉を聞き、悲しみながら立ち去った。たくさんの財産を持っていたからである」(マタイによる福音書19章16節～22節)。

あるとき、一人の男性がイエスさまに近づいて問いかけました。「先生、永遠の命を得るために、どんな善いことをすればよいのでしょうか」。この男性とイエスさまの会話の記事は、他の福音書にも出てきます(マルコによる福音書10章、ルカによる福音書18章)。マルコによる福音書は「ある人が走り寄って、ひざまずいて尋ねた」と、このときの様子をもっと生き生きと記録しています。この問いに対するイエスさまの答えは「なぜ、善いことについて、わたしに尋ねるのか。善い方はおひとりである。もし命を得たいのなら、掟を守りなさい」でした(17節)。

命は神が握っておられます。命を与えるのも、奪うのも神のみ心です。だから正しい(義なる)お方、神だけが善(義)であることを伝え、義なる神のみ心があらわされている律法を守りなさいと伝えました。

するとこの青年は「どの掟ですか」と聞き返します。そこでイエスさまは律法の中の律法である十戒から「『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、父母を敬え、また、隣人を自分のように愛しなさい』」と答えました。このイエスさまの言葉を聞いて「そういうことはみな守ってきました。まだ何か欠けているのでしょうか」と彼は続けて問いかけました。彼は、信仰を持って永遠の命を得たい、受け継ぎたいと心から望んでいました。そのために今まで自分でできること、しなければならないことは何でもしてきました。マルコ、ルカによる福音書にはともに、「そういうことは子供の時から守ってきた」と記されていますが、「まだ何か欠けているのでしょうか」と問います。

初代教会でも、割礼の有無によって救われるのか、救われないのかという議論が起こりました。イエスキリストの福音、十字架、復活、昇天、再臨の約束を信じるだけでは救われないという人間の救いに対する不安が論争を引き起こしました。神のみ心を知っている。そのみ心すべてを行っている、行ってきた。神との約束の言葉、律法はすべて守ってきたと答えた彼に、イエスさまは、神の前に完全になりたいならと言われました。「もし完全になりたいのなら、行って持ち物売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。青年はこの言葉を聞き、悲しみながら立ち去った。たくさんの財産を持っていたからである」(21、22節)。

父と子と聖霊なる三位一体のまことの神のみ心は、わたしたちが神と交わり(祈り)、生きることに心配することなく全てを委ねて、共に歩むことです。永遠の命とは、今与えられている命が終わったその先にも、神との関係、交わりが続くことです。聖書の罪という言葉には的外れという意味があります。悔い改めという言葉には方向転換という意味があります。的外れな生き方から神に方向転換することが神のみ心であり、イエスさまの願いです。

神と共に歩み続けたい、永遠の命を得たい、受け継ぎたいと願うこと。自分の考えだけではなく、喜怒哀楽のどんなときでも神に祈り、神のみ声を聞いて、神のみ心があらわれるようにと行動すること。そのために自分の持っている知識、経験、才能等、全てを用いて、神と人々とに仕えること。これらのことをイエスさまは望んでおられます。